調　査　研　究

明治大正期における日本人口とその動態

岡　崎　陽　一

I　序　論

明治初年以降現在に至るまでの100年余にわたって日本の経済社会が経験した目ざましい発展と転換のなかで，日本人口がどのように変貌したかを正確に跡づけてみることは，われわれ人口研究者にとってきわめて興味深い仕事である．

ごく一般的な見方をすれば，この間の人口の動きはいわゆるデモグラフィック・トランジション（demographic transition）の過程であって，多産多死から少産少死への推移とそれに伴った人口増加の過程であったということができるであろう．

しかし，わが国で近代的な人口調査が「国勢調査」として実施されたのは明治初年からおよそ50年後の大正９年以降のことであり，また出生，死亡などの人口動態統計は明治４年４月４日の「府藩県一般戸籍の法」により翌明治５年２月１日から全国的な身分登録制度が確立されたときに始まるわけで，その歴史はふるいが，しかしそれも明治31年までは内務省が地方行政機関から報告を徴収して民籍戸口表を編成し，内閣がこれに基づいて人口動態統計を作成するという地方分査方式によって作られていた．それが明治31年６月15日に戸籍法の改正があり，それとともに人口動態調査の手続が改正された．すなわち明治32年１月１日から，市町村長が人口統計材料統計小票（出生票，死亡票，婚姻票，離婚票，死産票）を１事件ごとに作成し，それを３カ月ごとに道府県庁を通じて内閣統計局に提出することになった．この時から人口動態調査が個票を用いた中央集査方式に変わり，わが国の人口動態統計は近代的な調査となったのである．

このような次第で，明治大正期の日本人口の実態は必ずしも正確には把握されていないといってよい．現在，明治大正期の人口数として公式に使われている数字は，昭和５年５月に内閣統計局が『明治五年以降我国の人口』として公表したものである．この数字は明治５年１月29日（陰暦）現在の本籍人口，大正９年および大正14年国勢調査，人口動態統計表を用いて，明治５年から大正14年までの間の各年１月１日現在の人口を推計したものである．

内閣統計局のこの推計によると，明治５年の人口数は3480万6000人，出生数は59万3000人，死亡数は41万2000人で，出生率17.0‰，死亡率11.8‰となっている．そして明治20年には人口数3870万3000人，出生数110万人，死亡数76万1000人で，出生率28.4‰，死亡率19.7‰となり，明治35年には人口数4496万4000人，出生数157万人，死亡数96万5000人で，出生率34.9‰，死亡率21.5‰となっている．要するに公表の推計人口によれば，明治期にわが国の出生率，死亡率は相当急角度に上昇したということになるのであるが，この点について以前から人口学者によって疑問が投じられていた．

たとえばフルムキンは，明治初期の人口動態率の漸騰は最初不完全であった動態登録制度がしだいに整備されるに至った事実を反映するにすぎないとの意見を述べており[1]，上田貞次郎博士もまたこの意見に賛意を表された[2]．さらに森田優三教授は明治期の出生率，死亡率を推計して，その結果「明治初年の出生率は必ずしも公表値のごとく低いものではなく，明治30年代とほぼ同様の高さ，すなわち人口1,000につき30以上の高さを有していたのであるが，その後しばらくはむしろ漸減の方向に動いた」とされ，さらに「この出生率が増加の方向に転じたのはおそらく明治の20年代においてである」と述べられている[3]．また死亡率についても「明治初年の死亡率は人口1,000につき22以上を示し，後年の死亡率よりもむしろ高かった」のであり，明治前半期の公表死亡率は増加のすう勢を示しているが，「死亡率はやはり漸減の傾向にあったと想像される」と述べられている[4]．

さらに『日本の人口』の著者であるアイリン・トイバー女史も「日本のデモグラフィック・トランジション再検討」[5]と題する論文の中で日本の出生率は19世紀後半に低くはなかったし，その一般的な動向は下降的であったと結論づけている．同様の見方は厚生省人口問題研究所の本多龍雄部長によっても述べられており，本多部長は「明治維新前後からのわが国人口動態の再吟味」と題する論文において，弘化２年から大正８年までの出生率と死亡率を推計して，明治初年以降，出生率も死亡率も大勢として低下の形をとるという結論を下しておられる[6]．

たしかに，わが国の出生率と死亡率が公表の統計が示しているように明治期に上昇していたとすれば，それは通常デモグラフィック・トランジションの型といわれているものから決定的にかけ離れていることになって大いに問題であるが，この問題に確かな結着をつけるためには，明治大正期の出生率，死亡率の水準と動きが実際にどうであったかを明らかにすることが必要である．前述のように森田教授は戦前にすでにこのようなアプローチをされたのであるが，戦後になって，内閣統計局の第１回生命表（明治24～31年），第２回生命表（明治32～36年），第３回生命表（明治42～大正２年）を改訂する作業が九州大学医学部の松浦公一氏によって行われた[7]．

この松浦氏の業績は大正９年の国勢調査の人口を基準にして逆進生残率法によってそれ以前の人口ならびに出生数，死亡数を推計する場合の不可欠の道具を提供するものであり，これを用いて本格的に明治大正期の人口推計を行う手掛りが得られることになった．

筆者は舘稔所長の指導の下に，松浦氏の改訂生命表の方法に沿って，さらに20年逆行して明治３年までの生命表を作成し，その生残率を用いて明治大正期の人口推計を行った[8]．その結果は「明治初年以降大正９年に至る男女年齢別人口推計について」（人口問題研究所研究資料，第145号，昭和37年２月１日）として発表されている．この結果によると，明治初期（明治３～８年）の出生率は36.3‰，死亡率は31.3‰といずれも相当に高かったが，死亡率はその後ほぼ一様に低下し，出生率は明治中期（明治18～23年）に33.7‰とやや低まり，その後再び上昇したが明治末期から低下して大正４～

1）G. Frumkin, "Japan's Demographic Expansion in the Light of Statistical Analysis", *Sociological Review*, Vol.XXX, No. 1, January 1938.

2）上田貞次郎，『日本人口史上の疑問二件』（第３回人口問題全国協議会報告書，昭和16年），191～２ページ．

3）森田優三，「明治年間に於ける我国人口増加の一分析」，『人口増加の分析』，昭和19年，430ページ．

4）森田優三，同上，431ページ．

5）Irene Barnes Taeuber, "Japan's Demographic Transition Re-examined", *Population Studies*, Vol. XⅣ, No. 1 July 1960.

6）本多龍雄，「明治維新前後からのわが国人口動態の再吟味」，『人口問題研究所年報』，第６号，1961年度，２ページ．

7）松浦公一，「日本人の国調前生命表（統計局第１～３回）の改作」，『医学研究』，第28巻第７号，昭和33年７月．

8）岡崎陽一，『明治初年以降大正９年に至る男女年齢別人口推計について』（人口問題研究所研究資料，第145号），昭和37年２月１日．

9年には33.2‰となっている．この結果は，森田教授や本多部長の業績と同様に公表値を大幅に修正する結果になっている．

ほぼ同じ時期に慶応大学の安川正彬教授によって大正9年以前，正確には1890（明治23）年から1920（大正9）年までの出生数と総出生率の推計が発表された[9]．この段階では推計作業は明治23年以前には及んでいず，また推計人口の年齢も明治23年に0歳から44歳までに止まっている．これはいうまでもなく，大正9年人口を基準にして遡及推計する場合，高年齢人口について何らかの仮定を設けることが必要であり，この仮定をもちこむことを望まないかぎり全年齢について推計することを断念せざるを得ないからである．それゆえ推計結果は出生数と総出生率（出生数÷15～44歳女子人口）で示されており，「大勢として1890年から1910年の20年間は，なお上昇傾向をたどってきたことがみとめられる．そして下降に向きを変えたのは1910年と1920年の間でおこったとみることができよう．」という結論が述べられている．

その後，安川教授は改めて「日本のモデル生命表」を作成し，これを用いて明治・大正年間の人口推計と人口動態に関する業績を発表しておられる．そのモデル生命表は，日本人口学会および日本統計学会においていくたびか発表されたが，その集大成版が第21回日本人口学会（昭和44年6月1日）で発表され，つづいて『三田学会雑誌』に掲載された[10]．そして，これを用いて行われた「明治・大正年間の人口推計と人口動態」が再び『三田学会雑誌』に発表されている[11]．この場合は，慶応元（1865）年から大正9（1920）年までの男女年齢別人口と出生数，死亡数が推計されており，したがって普通出生率，普通死亡率も推計されている．こうして推計された出生率の動向は，「慶応元年の34.69‰にはじまり，全体的な傾向としてはゆるやかな上昇をして大正9年の38.12‰へとつながっている．」し，死亡率の傾向は，「慶応元年の25.45‰を出発点として明治13年までごくわずか上昇しているが，全体的にみればゆるやかな下降傾向を示している．」なお，出生率，死亡率の水準は統計局の公表値よりはるかに高く，森田推計と筆者（岡崎）の推計の中間に位置している．

以上が，明治大正期における日本人口の出生率と死亡率に関してこれまでに行われ，発表されたもののうち主なものである．

Ⅱ　明治大正期の日本人口の遡及推計

1　旧推計を改訂する理由

前述のとおり筆者は昭和37年に明治初年から大正9年に至る期間の日本人口の推計を行ったが，今回次のような理由で旧推計を改訂することとした．

その主要な理由は，その後，安川教授の「日本のモデル生命表」，コール・デメンの「地域別モデル生命表ならびに安定人口」，歴史人口学者による江戸時代の平均寿命などの業績が発表され，明治大正期の人口推計を行うのに必要な情報が新しく得られるようになったことである．

旧推計においては，松浦公一氏が内閣統計局の第1回生命表（明治24～31年），第2回生命表（明治32～36年），第3回生命表（明治42～大正2年）を改訂された方法に沿って明治初年までの生命表を作成したのであるが，その方法がやや機械的にすぎたと思われるので，後述のような方法で改めることにした．この点が今回の推計の最も大きい改訂である．その他の点については旧推計とほぼ同じであるが，基準人口とした大正9年の国勢調査人口にみられる性比の乱れについて若干の修正を加えた点がもう一つの新たな改訂である．

9）安川正彬，「わが国1890～1920年の出生数と総出生率（General Fertility Rate）の推計―『人口転換』法則との関連によせて―」，『三田学会雑誌』，第55巻第5号，1962年．

10）安川正彬，「日本のモデル生命表」，『三田学会雑誌』，第64巻第5号，1971年．

11）安川正彬，「明治・大正年間の人口推計と人口動態」，『三田学会雑誌』，第65巻第2，3合併号，1972年．

2　遡及推計の方法の概要

遡及推計の方法は昭和37年に発表した旧推計と基本的には変わりはないが，改めてここにその概要を説明しておこう．

まず基準人口として大正９年10月１日現在で実施された国勢調査の男女年齢別人口（沖縄県を含む）をとり，これを出発点にして過去に向って遡及推計を行う．

しかし，大正７年と大正９年にはインフルエンザが流行し，死亡数も死亡率も異常に高かったので，この特別な事情を考慮して，大正７年１月１日までは，直接に人口動態統計を利用して人口の推計を行うこととする．

大正７年１月１日の男女５歳階級別人口を出発点として，逆進生残率法により５年ごとに５歳階級別の男女人口を計算する．

この場合に重要な役割を果す生残率は，旧推計では松浦公一氏による「改訂生命表」の作成原理に基づいて作成した生命表の生残率を用いたが，今回は後述のような方法で新らたに生命表を作成して生残率を計算しなおした．旧推計における生命表は内閣統計局によって作成された第１回生命表以前の期間，つまり明治初年から20年代までに関して，推計方法が単純にすぎ，その結果適切な推計値が得られなかったと思われるためである．

以上が今回行った推計の方法の概要であるが，以下，とくに今回改訂した点に重点をおきながら細かい説明を行うことにする．

3　大正９年10月１日国勢調査人口を基準にした大正７年１月１日人口の推計

この段階については旧推計をそのまま踏襲した．そしてその結果も旧推計のままである．

その推計手続きの説明は本稿では省略することとし，興味ある読者には旧稿15ページから33ページまでを参照されたい．しかし，結果として算出された大正７年１月１日人口だけは，それを５歳階級別にまとめて表１に掲げてある．その目的は，安川教授も指摘しておられるように[12]，大正９年の国勢調査人口には年齢申告上の乱れがあり，それが大正７年１月１日の推計人口にも反映していること，そしてそれを修正する必要があることを明らかにするためである．

後掲の表１に大正７年１月１日人口の性比が示されているが，それは15～19歳，30～34歳，35～39歳のところで異常に低く，それと対照的に20～24歳と25～29歳のところで高くなっている．これと見合うように大正９年10月１日国勢調査人口の性比にも乱れがみられる．

ところでこのような性比の乱れがどんな原因によって生じたのかをつきとめることは困難である．安川教授は「1920年の国勢調査時に21歳と22歳の男子人口は徴兵年齢にあって，調査時には軍務に服して外地に赴いた男子によって影響をうけた」という解釈をしておられるが，果してこの解釈が正しいか否か，筆者には判断がつきかねる．たしかに大正９年の20～24歳人口の性比は1.010と低いのでその原因は徴兵年齢にあった男子人口の漏れにあるとみるべき理由はみとめられる．そしてこれが大正７年１月１日の15～19歳人口の推計値において性比を低からしめたとみるべき理由であろう．そこで，ここでは大正７年１月１日の15～19歳人口の性比を1.0200に修正することにする．その根拠は５～９歳の性比が1.0199，10～14歳のそれが1.0202であることによった．しかも漏れは男子人口の側にあったとみて，女子人口（2618278）×1.0200＝男子人口2670644を算出した．こうして15～19歳男子人口は2670644－2637807＝32837だけ水増しされることになったが，この増分は一階級上の20～24歳に誤って申告され，性比を異常に高めていたものと仮定し，2241879－32837＝2209042として20～24歳人口を修正した．しかし，このように修正すると，表１に示されているように20～24歳の性比は1.0146となり低まりすぎる結果になる．げれどもその修正はあえて行わなかった．

12）安川正彬，『人口の経済学≪改訂増補第三版≫』，180ページ．

次に30～34歳の性比が1.0082と異常に低い点については，その原因は不明であるが，ここでもとりあえず1.0200が正しいと仮定して男子人口を修正し，その増分を一階級下の25～29歳の男子人口から差引いて修正した．この場合25～29歳の性比は1.0349と高かったのが1.0240に修正されることになる．

最後に，35～39歳の性比が1.0110と低い点であるが，これはこの年から13年前の日露戦争時に兵役にあった男子の損失の一部が影響しているものと考えて，性比が1.0200となるよう男子人口を増加させ1760452とした．

以上のようにして，遡及推計の出発点となる大正7年1月1日の男女年齢別人口を算出した．

4　旧推計における生命表の問題点

遡及推計に必要な生命表は旧推計の欠点を改めるため，新らしく作成しなおしたが，まず旧推計における生命表について簡単に説明しておこう．

それは前述のとおり松浦公一氏「日本人の国調前生命表（統計局第1～3回）の改作」『医学研究』第28巻，第7号，昭和33年7月の方法に沿って，次のように行われた．

(1)　q_0，q_1，${}_3q_2$ および ${}_5q_{50}$，${}_5q_{55}$，${}_5q_{60}$，${}_5q_{65}$，${}_5q_{70}$ については，内閣統計局の第5，6回完全生命表と厚生省統計調査部の第8回完全生命表の ${}_nq_x$ に直線を当てはめ，その回帰線上に大正4年から明治3年までの10個の時点の ${}_nq_x$ を推計した．

(2)　${}_5q_5$，${}_5q_{10}$，${}_5q_{15}$，${}_5q_{20}$，${}_5q_{25}$，${}_5q_{30}$，${}_5q_{35}$，${}_5q_{40}$，${}_5q_{45}$ については，内閣統計局の第1，2，3回完全生命表の ${}_nq_x$ に直線を当てはめ，その回帰線上に大正4年から明治3年までの10個の時点の ${}_nq_x$ を推計した．ただし，当てはめた直線が右上りの傾斜を示した場合（男の ${}_5q_{15}$，${}_5q_{20}$，女の ${}_5q_{10}$，${}_5q_{15}$，${}_5q_{20}$，${}_5q_{25}$）は明治18年以前は水平の直線に置きかえて推計した．

この方法で推計した結果に基づいて得られた生命表の平均寿命（$\mathring{e}_0$）をとくに明治23年以前について示すと次のとおりである．

年　次	男	女
明治23年	36.3年	38.7年
〃　18	35.1	37.7
〃　13	34.0	36.7
〃　8	32.8	35.7
〃　3	31.7	34.7

既述のとおり，ここで用いた方法は原則的に松浦公一氏の方法であり，それを明治23年以前に延長して生命表を作成したものである．

ただこの方法では，直線回帰線を当てはめ，その上に推計値を求めているため，比較的短い期間に関する推計であれば誤差は小さいにせよ，期間が長くなれば，誤差は大きくなることを避けられないであろう．年齢別死亡率 ${}_nq_x$ の長期時系列の動きは，過去から現在に向って，ある高い上限から緩慢な低下を始め，ある段階でかなり急速に低下し，やがて低下速度が鈍化して，ある低い下限に向うと想定するのが正しい見方であろうと思われる．

その意味において，旧推計は改訂の必要があろうと考えられる．今回の新推計の最も重要な改正点は，次に述べる方法で，上に述べた想定に沿って ${}_nq_x$ を推計したことにある．

5　新たな生命表の ${}_nq_x$ の推計方法

${}_nq_x$ を推計するさいの原則としては，旧推計と同様に，内閣統計局の第5，6回完全生命表と厚生省統計情報部の第8回生命表の ${}_nq_x$ を依りどころとする．しかし，年齢によって内閣統計局の第1，2回完全生命表の ${}_nq_x$ に依ったものもある．詳しくは後に説明する．

これらの実績値に対して当てはめる回帰線は，上限と下限を与えたゴンペルツ曲線とし，その上に必要な年次の推計値を求めることとする．

ゴンペルツ曲線に対して与えた上限と下限は，各年齢とも共通して，Coale-Demeny, *Regional Model Life Tabels and Stable Populations*, 2 nd ed., 1983のWest Modelの中から，上限としてはLevel 5（$\mathring{e}_0$：男27.667，女30.000）を採り，下限としてはLevel 25（$\mathring{e}_0$：男76.647，女80.000）を採った．この場合とくに問題になるのは上限の値であろうと思われるが，歴史人口学の業績の中で，「出生時平均余命の長期的推移を描くならば，17世紀には20代後半ないし30代そこそこだったものが，18世紀には30代半ば，そして19世紀には30代後半の水準を獲得して明治中期の水準につながったものと思われる．」[13] といった表現が用いられていることを考慮に入れて決めたものである．

具体的に各年齢の ${}_nq_x$ を推計した方法を説明すると，次の通りである．それぞれ数値は表2に掲げてある．

${}_1q_0$ ： 男，女とも，第5，6，8回生命表の ${}_1q_0$ をベースに，上限，下限を与えてゴンペルツ曲線を当てはめる．

${}_1q_1$ ： 男，女とも，第5，6，8回生命表の ${}_1q_1$ をベースに，上限，下限を与えてゴンペルツ曲線を当てはめる．但し，Regional Model Life Tablesには ${}_1q_1$ がないので，

$$ {}_1q_1 \text{の上限} = {}_1q_0 \text{の上限} \times \frac{\text{第1回生命表の } {}_1q_1}{\text{第1回生命表の } {}_1q_0} $$

$$ {}_1q_1 \text{の下限} = {}_1q_0 \text{の下限} \times \frac{\text{第8回生命表の } {}_1q_1}{\text{第8回生命表の } {}_1q_0} $$

で推計した．

${}_3q_2$ ： 男，女とも，第5，6，8回生命表の ${}_3q_2$ をベースに，上限，下限を与えてゴンペルツ曲線を当てはめる．但し，Regional Model Life Tablesには ${}_3q_2$ がないので，

$$ {}_3q_2 \text{の上限} = {}_1q_0 \text{の上限} \times \frac{\text{第1回生命表の } {}_3q_2}{\text{第1回生命表の } {}_1q_0} $$

$$ {}_3q_2 \text{の下限} = {}_1q_0 \text{の下限} \times \frac{\text{第8回生命表の } {}_3q_2}{\text{第8回生命表の } {}_1q_0} $$

で推計した．

${}_5q_5$ ： 男，女とも，第5，6，8回生命表の ${}_5q_5$ をベースに，Regional Model Life Tablesの上限，下限を与えてゴンペルツ曲線を当てはめる．

${}_5q_{10}$ ： 男については，第5，6，8回生命表の ${}_5q_{10}$ をベースに，Regional Model Life Tablesの上限，下限を与えてゴンペルツ曲線を当てはめる．

女については，第5，6回生命表の ${}_5q_{10}$ は当時の結核死亡率により正常値以上に高いので，むしろ第1，2回生命表と第8回生命表の ${}_5q_{10}$ をベースに，Regional Model Life Tablesの上限，下限を与えてゴンペルツ曲線を当てはめる．

${}_5q_{15}$ ： 男，女とも，第5，6回生命表の ${}_5q_{15}$ は正常値以上に高いので，第1，2回生命表と第8回生命表の ${}_5q_{15}$ をベースに，Regional Model Life Tablesの上限，下限を与えてゴンペルツ曲線を当てはめる．

${}_5q_{20}$ ： 男，女とも，第5，6，8回生命表の ${}_5q_{20}$ は正常値以上に高いと判断されるので，第1，2回生命表と1950年生命表の ${}_5q_{20}$ をベースに，Regional Model Life Tablesの上限，下限を与えてゴンペルツ曲線を当てはめる．

13) 鬼頭宏，『日本2000年の人口史』，146ページ．

${}_5q_{25}$，${}_5q_{30}$，${}_5q_{35}$，${}_5q_{40}$，${}_5q_{45}$ はいずれも ${}_5q_{20}$ と同じ扱いをした．

${}_5q_{50}$： 男，女とも，第5，6，8回生命表の ${}_5q_x$ ベースに，Regional Model Life Tables の上限，下限を与えてゴンペルツ曲線を当てはめる．

${}_5q_{55}$，${}_5q_{60}$，${}_5q_{65}$，${}_5q_{70}$，${}_5q_{75}$，${}_5q_{80}$，${}_5q_{85}$ はいずれも ${}_5q_{50}$ と同じ扱いをした．

このようにして推計された ${}_nq_x$ の値は，表3に示されている[14]．そして，これらの ${}_nq_x$ に基づいて作成された生命表の出生時平均余命（$\mathring{e}_0$）は右掲のとおりである．

年　次	男	女
慶応元年（1865）	34.39年	36.23年
明治 3　（1870）	34.93	36.78
8　（1875）	35.53	37.39
13　（1880）	36.18	38.07
18　（1885）	36.90	38.81
23　（1890）	37.70	39.64
28　（1895）	38.57	40.56
33　（1900）	39.52	41.55
38　（1905）	40.57	42.67
43　（1910）	41.70	43.88
大正 4　（1915）	42.93	45.20

6　大正7年1月1日人口をベースとする明治大正期人口の遡及推計

前節で説明した生命表の生残率を用いて，大正7年1月1日男女年齢別人口をベースに明治大正期人口を遡及推計する．

その場合，85～89歳人口および90歳以上人口は一定の仮定を設けて計算せざるを得ないが，ここでは次のように取り扱った．

85～89歳人口＝0～84歳人口×J（定数）

90歳以上人口＝0～84歳人口×K（定数）

とする．ただし，Jの値は大正9年，14年，昭和5年の国勢調査における0～84歳人口に対する85～89歳人口の比の平均値，Kの値は同じく0～84歳人口に対する90歳以上人口の比の平均値である．その値はJについては男0.0006741，女0.0014107であり，Kについては男0.0001302，女0.0003445である．

遡及推計の結果は表4に掲げてある．

Ⅲ　遡及推計の結果について

1　明治元年から大正7年に至る総人口及び男女別人口

推計の結果得られた明治元（1868）年の人口は下の表のとおり，3455万8781人で，男子は1776万6397

推　計　人　口

年　次	男	女	男女計	平均人口	増加人口
明治元年（1868）	17,766,397	16,792,384	34,558,781	34,828,888	540,213
6　（1873）	17,984,471	17,114,523	35,098,994	35,723,742	1,249,495
11　（1878）	18,550,539	17,797,950	36,348,489	37,059,259	1,421,539
16　（1883）	19,202,245	18,567,783	37,770,028	38,397,404	1,254,751
21　（1888）	19,776,059	19,248,720	39,024,779	39,733,189	1,416,819
26　（1893）	20,439,792	20,001,806	40,441,598	41,325,322	1,767,448
31　（1898）	21,273,117	20,935,929	42,209,046	43,468,898	2,519,703
36　（1903）	22,498,736	22,230,013	44,728,749	46,070,202	2,682,906
41　（1908）	23,807,659	23,603,996	47,411,655	49,174,509	3,525,708
大正 2　（1913）	25,544,406	25,392,957	50,937,363	52,796,192	3,717,658
7　（1918）	27,378,241	27,276,780	54,655,021	—	—

14）ゴンペルツ曲線のあてはめとそれによる ${}_nq_x$ の推計のためのプログラムの作成は人口問題研究所人口情報部石川晃技官により，また計算は及川恵美子さん（人口研庶務課）による．

人，女子は1679万2384人である．この人口は時の経過とともに増加し，明治26（1893）年には4000万人を超えて4044万1598人，男子2043万9792人，女子2000万1806万人になり，さらに大正2（1913）年には5000万人を超え，5093万7363人，男子2554万4406人，女子2539万2957人になった．そして最終時点の大正7（1918）年には5465万5021人，男子2737万8241人，女子2727万6780人であった．

なお，のちに人口動態率を計算する必要上，毎期間の平均人口と増加人口を求めてある．平均人口は，たとえば明治元年の3455万8781人と同6年の3509万8994人の平均値として3482万8888人が算出され，これをもってこの期間を代表する人口（person-years lived）としている．

2　出生数の推計

各期間の出生数は0～4歳人口を基礎とし，出生児（l_0）の0～4歳人口（${}_5L_0$）への生残率を適用して推計した．

各期間の男女別ならびに男女計の出生数と出生性比が下の表に示されている．

出　生　数

期　　間	男	女	男女計	性　比
明治元－6（1868－73）	2,686,320	2,589,150	5,275,470	1.03753
6－11（1873－78）	3,144,493	3,053,451	6,197,944	1.02982
11－16（1878－83）	3,276,305	3,187,111	6,463,416	1.02799
16－21（1883－88）	3,162,244	3,066,946	6,229,190	1.03107
21－26（1888－93）	3,258,705	3,139,185	6,397,890	1.03807
26－31（1893－98）	3,478,758	3,366,693	6,845,451	1.03329
31－36（1898－03）	3,997,996	3,834,486	7,832,482	1.04264
36－41（1903－08）	4,119,479	3,943,429	8,062,908	1.04464
41－大2(1908－13)	4,645,579	4,446,198	9,091,777	1.04484
大正2－7（1913－18）	4,763,437	4,571,890	9,335,327	1.04190

3　人口増加率，出生率，死亡率

人口増加数と出生数の差として死亡数が算出される（封鎖人口を前提とし，国際人口移動はないものとする）．それらの実数を各期間について計算したものが次の表である．さらに，それぞれを平均人口で割り，増加率，出生率，死亡率を計算した結果を年率で示したものが，その表の右側である．

人口動態：実数と率（年率）

期　　間	増加数	出生数	死亡数	平均人口	増加率	出生率	死亡率
明治元－6（1868－73）	540,213	5,275,470	4,735,257	34,828,888	0.00310	0.03029	0.02719
6－11（1873－78）	1,249,495	6,197,944	4,948,449	35,723,742	0.00700	0.03470	0.02770
11－16（1878－83）	1,421,539	6,463,416	5,041,877	37,059,259	0.00767	0.03488	0.02721
16－21（1883－88）	1,254,751	6,229,190	4,974,439	38,397,404	0.00654	0.03245	0.02591
21－26（1888－93）	1,416,819	6,397,890	4,981,071	39,733,189	0.00713	0.03220	0.02507
26－31（1893－98）	1,767,448	6,845,451	5,078,003	41,325,322	0.00855	0.03313	0.02458
31－36（1898－03）	2,519,703	7,832,482	5,312,779	43,468,898	0.01159	0.03604	0.02444
36－41（1903－08）	2,682,906	8,062,908	5,380,002	46,070,202	0.01165	0.03500	0.02336
41－大2(1908－13)	3,525,708	9,091,777	5,566,069	49,174,509	0.01434	0.03698	0.02264
大正2－7(1913－18)	3,717,658	9,335,327	5,617,669	52,796,192	0.01408	0.03536	0.02128

この結果によると，明治時代初期における人口増加率は年率0.31%ときわめて緩かであったが，明治6年以降やや増加率が高まった．しかし，それでも明治31年以前の増加率は年率1%を超えない程度のものであった．明治31年以降，増加率は1%を超えるようになり，とくに明治41年以降は年率1.4%とわが国としては相当に高い人口増加がみられるようになった．

また出生率は明治時代初期には30.29‰とやや低かったが，明治6～11年，11～16年には34.70‰，34.88‰とかなり高まった．しかし，それにつづく明治16～21年，21～26年には32.45‰，32.20‰とやや低下し，その後再び上昇して，明治31年以降は35～37‰と相当に高い出生率がみられた．このように，明治大正期における出生率は概して高かったが，何らかの理由によって，出生率に変動が生じたことが示されるのである．

次に死亡率をみると，明治時代前半期は27‰台と高かったが，中期，後期と時代を経るにつれて次第に低下し，明治41～大正2年には22.64‰，また大正2～7年には21.28‰に下っていることがわかる．このように死亡率は出生率と違って変動は少く，むしろスムースに低下の一途をたどっていたという結果になっている．

4　おわりに—今後の課題—

以上に説明した明治大正期における日本人口とその動態は，およそ20年前に筆者が行った明治初年から大正9年に至る日本人口の推計を改算したものであるが，すでに説明したように，今回の改算の最も重要なポイントはこの推計に必要な明治時代の生命表を改めて作成しなおした点にある．生命表の基礎になるのは年齢別死亡率（q_x）であるが，前回は明治初期あるいはそれ以前におけるq_xの水準が不明であることから，松浦公一氏の方法にならって，内閣統計局の第5，6回の生命表および厚生省統計調査部の第8回生命表のq_xに直線回帰線をあてはめ，その線上に明治時代のq_xを遡及推計するという方法をとった．ただ，若干の年齢については内閣統計局の第1，2，3回生命表のq_xの水準をそのまま過去に延長しているが，それもまた明治以前の死亡率が不明なためにやむをえず採った方法であった．

この点を改善する必要があることは明らかであるが，それには明治以前の死亡率について何らかの情報が必要であった．幸い，その後の歴史人口学の成果は江戸時代の死亡率について貴重な情報を提供しているし，またコールとデメンのモデル生命表もこの点で大いに役立つ業績である．つまり，これらの成果を基礎にして，古い時代のq_xの上限値を設定することが可能になり，本文で述べたような方法で，明治大正期のより現実的なq_x水準を推計することができたのである．

こうして，旧推計よりは一段と現実的な明治大正期の男女年齢別人口ならびに人口動態率が推計されたわけであるが，今後の課題としてなお次の諸点の検討がなされなければならないであろう．

(1)　言うまでもなく，この推計において最も重要な役割を果した生命表の死亡率（q_x）は既述の方法でトレンド的な水準として求められたものであるが，実際には明治大正期の死亡率は種々の原因のためにトレンドの上下に変動していたものと考えられる．旧推計でも今回の推計でも，大正7年，9年のインフルエンザの影響だけは除去されているが，それ以外の要因の影響をさらにいくつか検討してより正確な死亡率を推計しなければならないであろう．

(2)　このような遡及推計が必要と考えられたそもそもの動機は，公表されている出生率と死亡率の水準と動向が，先進諸国の経験と比較して信用し難いということにあった．それゆえ，公表の出生数ならびに死亡数と推計された出生数ならびに死亡数との間には相当に大きな開きが認められるのは当然のことである．そこで，推計の結果がより真実に近いものであることを確認するためには，公表の出生数および死亡数のもとになっている登録制度の実態，機能の検討，なにゆえに漏れが生じたのかを調べる必要があろう．

(3) この推計でも旧推計でも，明治大正期の出生率は単調な動きではなく，大きなうねりをもって推移しているが，何がこのようなうねりを生み出したのか，人口学的要因，社会経済的要因の両面にわたって検討し，十分な説明をつけるように努力しなければならないであろう．

(4) 最後に明治大正期の人口とその動きは，それに先立つ江戸時代の人口，またそれに続く昭和期の人口の動きと無理なくつながるものでなければならない．明治大正期の人口推計を完全なものとするためには，その前後期との連続性に関する検討が必要であると思われる．

Population of Japan in the Meiji-Taishyo Era
—Re-estimation—

Yoichi OKAZAKI

Populations and its vital rates in the Meiji-Taishyo era in Japan have not been determined in spite of their importance for studying the modernizing process of the Japanese economy and society. The first population census was taken in 1920 and the modern system of civil registration was established in 1898. The Bureau of Census conducted estimations of populations and vital rates in the pre-census years and published them in 1930. But these estimations have received some criticism from foreign and Japanese demographers, particularly rapidly rising trends of birth and death rates since the beginning of the Meiji era shown in these estimations have been questioned.

Several estimations were already conducted in Japan to make clear this point. The auther of this paper also published an estimation in 1962 and wrote a paper, *Population Estimates by Sex and Age from 1870 s to 1920*, Institute of Population Problems Research Series, No.145, February 1962.

Since then, valuable studies were conducted in the field of historical demography, particularly for the pre-modern era in Japan, suggesting levels of mortality in the era. Also Coale-Demeny's Regional Model Life Tables were published to provide valuable guidelines for this kind of study.

Re-estimation presented in this paper is conducted to utilize effectively the above-mentioned study products. The most important revisions in the present estimation are that life-table death rates (${}_nq_x$) for the Meiji-Taishyo era are estimated by Gompertz curves with upper and lower limits in place of the former linear curves. It may be sure that by this revision the new estimates would become more reasonable than the old estimates by the auther.

表1　大正7年1月1日推計人口とその修正値

年齢	男	女	性比	男	性比
0～4歳	3,775,548	3,711,232	1.0173	—	—
5～9	3,361,697	3,296,095	1.0199	—	—
10～14	2,869,281	2,812,449	1.0202	—	—
15～19	2,637,807	2,618,278	1.0075	2,670,644	1.0200
20～24	2,241,879	2,177,312	1.0297	2,209,042	1.0146
25～29	1,980,924	1,914,192	1.0349	1,960,135	1.0240
30～34	1,779,632	1,765,119	1.0082	1,800,421	1.0200
35～39	1,744,847	1,725,933	1.0110	1,760,452	1.0200
40～44	1,581,793	1,543,711	1.0247	—	—
45～49	1,247,335	1,215,280	1.0264	—	—
50～54	1,140,325	1,115,715	1.0221	—	—
55～59	880,326	891,541	0.9874	—	—
60～64	839,335	886,537	0.9468	—	—
65～69	616,484	698,553	0.8825	—	—
70～74	389,036	481,461	0.8080	—	—
75～79	184,017	258,686	0.7114	—	—
80～84	66,488	112,213	0.5925	—	—
85～89	21,967	43,229	0.5082	—	—
90以上	3,915	9,244	0.4235	—	—
合計	27,362,636	27,276,780	—	—	—

表2　$_nq_x$ の推計のための基礎データ：上限，下限つきゴンペルツ曲線用

		時点	死亡率			時点	死亡率
$_1q_0$：				$_3q_2$：			
男	上限		0.25989	男	上限		0.07021
	第5回	1928.50	0.14092		第5回	1928.50	0.04641
	第6回	1935.75	0.11368		第6回	1935.75	0.04232
	第8回	1947.50	0.08598		第8回	1947.50	0.03679
	下限		0.00711		下限		0.00304
女	上限		0.25611	女	上限		0.08457
	第5回	1928.50	0.12492		第5回	1928.50	0.04800
	第6回	1935.75	0.09978		第6回	1935.75	0.04224
	第8回	1947.50	0.07674		第8回	1947.50	0.03625
	下限		0.00445		下限		0.00210
$_1q_1$：				$_5q_5$：			
男	上限		0.07473	男	上限		0.04696
	第5回	1928.50	0.04309		第5回	1928.50	0.02117
	第6回	1935.75	0.03694		第6回	1935.75	0.02003
	第8回	1947.50	0.03316		第8回	1947.50	0.01675
	下限		0.00274		下限		0.00061
女	上限		0.07098	女	上限		0.05024
	第5回	1928.50	0.04211		第5回	1928.50	0.02257
	第6回	1935.75	0.03520		第6回	1935.75	0.01988
	第8回	1947.50	0.03245		第8回	1947.50	0.01519
	下限		0.00188		下限		0.00061

表2（つづき）

$_5q_{10}$：		時　点	死亡率
男	上　限		0.03380
	第5回	1928.50	0.01405
	第6回	1935.75	0.01296
	第8回	1947.50	0.00937
	下　限		0.00057
女	上　限		0.03927
	第1回	1895.00	0.02310
	第2回	1901.05	0.02199
	第8回	1947.50	0.00972
	下　限		0.00021

$_5q_{20}$：		時　点	死亡率
男	上　限		0.06525
	第1回	1895.00	0.04217
	第2回	1901.50	0.04215
	1950年	1950.00	0.01813
	下　限		0.00177
女	上　限		0.06399
	第1回	1895.00	0.04630
	第2回	1901.50	0.04837
	1950年	1950.00	0.01615
	下　限		0.00057

$_5q_{15}$：			
男	上　限		0.04604
	第1回	1895.00	0.03261
	第2回	1901.05	0.03114
	第8回	1947.50	0.02223
	下　限		0.00130
女	上　限		0.05125
	第1回	1895.00	0.03615
	第2回	1901.05	0.03910
	第8回	1947.50	0.02265
	下　限		0.00038

$_5q_{25}$：			
男	上　限		0.07287
	第1回	1895.00	0.04281
	第2回	1901.50	0.03965
	1950年	1950.00	0.02129
	下　限		0.00163
女	上　限		0.07166
	第1回	1895.00	0.04873
	第2回	1901.50	0.04857
	1950年	1950.00	0.01934
	下　限		0.00078

$_5q_{30}$：		時　点	死亡率
男	上　限		0.08404
	第1回	1895.00	0.04315
	第2回	1901.50	0.03994
	1950年	1950.00	0.02140
	下　限		0.00183
女	上　限		0.08083
	第1回	1895.00	0.05116
	第2回	1901.50	0.04997
	1950年	1950.00	0.02008
	下　限		0.00109

$_5q_{40}$：		時　点	死亡率
男	上　限		0.11803
	第1回	1895.00	0.05975
	第2回	1901.50	0.05587
	1950年	1950.00	0.03104
	下　限		0.00451
女	上　限		0.09489
	第1回	1895.00	0.05792
	第2回	1901.50	0.05562
	1950年	1950.00	0.02594
	下　限		0.00328

$_5q_{35}$：			
男	上　限		0.09821
	第1回	1895.00	0.04874
	第2回	1901.50	0.04565
	1950年	1950.00	0.02408
	下　限		0.00255
女	上　限		0.08854
	第1回	1895.00	0.05569
	第2回	1901.50	0.05393
	1950年	1950.00	0.02211
	下　限		0.00178

$_5q_{45}$：			
男	上　限		0.13640
	第1回	1895.00	0.07619
	第2回	1901.50	0.07250
	1950年	1950.00	0.04295
	下　限		0.00939
女	上　限		0.10226
	第1回	1895.00	0.06285
	第2回	1901.50	0.05940
	1950年	1950.00	0.03339
	下　限		0.00670

表2（つづき）

$_5q_{50}$:		時　点	死亡率
男	上　限		0.17082
	第 5 回	1928.50	0.09742
	第 6 回	1935.75	0.09470
	第 8 回	1947.50	0.08355
	下　限		0.01808
女	上　限		0.13142
	第 5 回	1928.50	0.06924
	第 6 回	1935.75	0.06620
	第 8 回	1947.50	0.06010
	下　限		0.01155

$_5q_{60}$:		時　点	死亡率
男	上　限		0.27371
	第 5 回	1928.50	0.20037
	第 6 回	1935.75	0.19002
	第 8 回	1947.50	0.18520
	下　限		0.06085
女	上　限		0.23678
	第 5 回	1928.50	0.13635
	第 6 回	1935.75	0.12690
	第 8 回	1947.50	0.12507
	下　限		0.03463

$_5q_{55}$:			
男	上　限		0.20633
	第 5 回	1928.50	0.13786
	第 6 回	1935.75	0.13397
	第 8 回	1947.50	0.12241
	下　限		0.03540
女	上　限		0.16585
	第 5 回	1928.50	0.09345
	第 6 回	1935.75	0.08791
	第 8 回	1947.50	0.08241
	下　限		0.02018

$_5q_{65}$:			
男	上　限		0.35222
	第 5 回	1928.50	0.28123
	第 6 回	1935.75	0.27040
	第 8 回	1947.50	0.26642
	下　限		0.10482
女	上　限		0.30864
	第 5 回	1928.50	0.20392
	第 6 回	1935.75	0.18943
	第 8 回	1947.50	0.18580
	上　限		0.06743

$_5q_{70}$:		時　点	死亡率
男	上　限		0.45965
	第 5 回	1928.50	0.39088
	第 6 回	1935.75	0.37692
	第 8 回	1947.50	0.36736
	下　限		0.17583
女	上　限		0.42390
	第 5 回	1928.50	0.30035
	第 6 回	1935.75	0.28590
	第 8 回	1947.50	0.27643
	下　限		0.12645

$_5q_{80}$:		時　点	死亡率
男	上　限		0.72675
	第 5 回	1928.50	0.66797
	第 6 回	1935.75	0.66064
	第 8 回	1947.50	0.61996
	下　限		0.42230
女	上　限		0.69559
	第 5 回	1928.50	0.59878
	第 6 回	1935.75	0.60208
	第 8 回	1947.50	0.56125
	下　限		0.36256

$_5q_{75}$:			
男	上　限		0.60069
	第 5 回	1928.50	0.52234
	第 6 回	1935.75	0.51025
	第 8 回	1947.50	0.48745
	下　限		0.28205
女	上　限		0.55744
	第 5 回	1928.50	0.43380
	第 6 回	1935.75	0.42429
	第 8 回	1947.50	0.40227
	下　限		0.22932

$_5q_{85}$:			
男	上　限		0.85732
	第 5 回	1928.50	0.80686
	第 6 回	1935.75	0.80679
	第 8 回	1947.50	0.75153
	下　限		0.59640
女	上　限		0.83746
	第 5 回	1928.50	0.77082
	第 6 回	1935.75	0.78734
	第 8 回	1947.50	0.73410
	下　限		0.53855

表3　明治大正期の推定死亡率（ $_nq_x$ ）の値

男	明治 3	明治 8	明治13	明治18	明治23	明治28	明治33	明治38	明治43	大正 4
年齢	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x
0	0.25270	0.24701	0.24066	0.23359	0.22576	0.21713	0.20766	0.19735	0.18619	0.17422
1	0.06251	0.06135	0.06009	0.05873	0.05726	0.05568	0.05399	0.05218	0.05025	0.04821
2	0.06313	0.06230	0.06137	0.06035	0.05922	0.05798	0.05662	0.05512	0.05349	0.05171
5	0.03313	0.03231	0.03145	0.03055	0.02962	0.02865	0.02765	0.02662	0.02555	0.02446
10	0.02619	0.02546	0.02469	0.02385	0.02296	0.02201	0.02100	0.01994	0.01882	0.01766
15	0.03592	0.03528	0.03461	0.03390	0.03316	0.03238	0.03157	0.03072	0.02984	0.02892
20	0.05090	0.04957	0.04813	0.04658	0.04494	0.04318	0.04132	0.03935	0.03729	0.03514
25	0.05004	0.04862	0.04713	0.04558	0.04397	0.04230	0.04058	0.03880	0.03698	0.03512
30	0.05135	0.04971	0.04802	0.04629	0.04451	0.04269	0.04083	0.03895	0.03704	0.03511
35	0.05862	0.05669	0.05471	0.05269	0.05061	0.04849	0.04634	0.04416	0.04195	0.03973
40	0.07102	0.06880	0.06651	0.06416	0.06177	0.05932	0.05684	0.05432	0.05177	0.04920
45	0.08902	0.08658	0.08405	0.08145	0.07877	0.07603	0.07322	0.07035	0.06744	0.06448
50	0.13297	0.13063	0.12818	0.12562	0.12293	0.12013	0.11720	0.11416	0.11101	0.10774
55	0.17371	0.17147	0.16909	0.16658	0.16393	0.16114	0.15820	0.15511	0.15186	0.14847
60	0.23253	0.23024	0.22786	0.22536	0.22274	0.22001	0.21716	0.21418	0.21109	0.20787
65	0.31166	0.30949	0.30722	0.30484	0.30235	0.29974	0.29703	0.29419	0.29123	0.28814
70	0.43212	0.42971	0.42711	0.42430	0.42126	0.41799	0.41446	0.41067	0.40659	0.40222
75	0.57846	0.57583	0.57290	0.56964	0.56603	0.56202	0.55758	0.55269	0.54729	0.54135
80	0.72010	0.71873	0.71709	0.71511	0.71273	0.70989	0.70648	0.70242	0.69759	0.69186
85	0.85459	0.85383	0.85286	0.85163	0.85007	0.84808	0.84556	0.84237	0.83836	0.83331
90–	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

女	明治 3	明治 8	明治13	明治18	明治23	明治28	明治33	明治38	明治43	大正 4
年齢	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x	q_x
0	0.21987	0.21506	0.20968	0.20370	0.19706	0.18972	0.18167	0.17287	0.16334	0.15308
1	0.05999	0.05891	0.05775	0.05648	0.05512	0.05364	0.05206	0.05036	0.04855	0.04662
2	0.07139	0.07006	0.06862	0.06705	0.06534	0.06350	0.06152	0.05939	0.05712	0.05470
5	0.03992	0.03891	0.03780	0.03661	0.03534	0.03397	0.03251	0.03096	0.02932	0.02760
10	0.02840	0.02752	0.02658	0.02558	0.02453	0.02343	0.02228	0.02108	0.01983	0.01855
15	0.04267	0.04190	0.04107	0.04017	0.03921	0.03818	0.03708	0.03591	0.03466	0.03334
20	0.05573	0.05457	0.05328	0.05182	0.05019	0.04838	0.04637	0.04417	0.04176	0.03916
25	0.05836	0.05693	0.05536	0.05366	0.05182	0.04982	0.04768	0.04539	0.04296	0.04038
30	0.05043	0.04883	0.04718	0.04548	0.04373	0.04194	0.04010	0.03823	0.03634	0.03442
35	0.06737	0.06544	0.06337	0.06116	0.05881	0.05632	0.05368	0.05092	0.04803	0.04503
40	0.06940	0.06741	0.06530	0.06307	0.06073	0.05827	0.05570	0.05302	0.05026	0.04740
45	0.07304	0.07113	0.06912	0.06702	0.06483	0.06256	0.06020	0.05776	0.05525	0.05268
50	0.09370	0.09193	0.09009	0.08820	0.08625	0.08424	0.08217	0.08004	0.07787	0.07564
55	0.12130	0.11924	0.11710	0.11489	0.11261	0.11027	0.10785	0.10537	0.10282	0.10022
60	0.16351	0.16125	0.15893	0.15658	0.15417	0.15173	0.14924	0.14670	0.14413	0.14152
65	0.24412	0.24104	0.23785	0.23454	0.23111	0.22757	0.22931	0.22014	0.21625	0.21225
70	0.35427	0.35043	0.34642	0.34223	0.33787	0.33332	0.32859	0.32368	0.31858	0.31330
75	0.50264	0.49848	0.49404	0.48931	0.48428	0.47894	0.47328	0.46729	0.46096	0.45429
80	0.66930	0.66624	0.66283	0.65905	0.65486	0.65024	0.64513	0.63951	0.63333	0.62657
85	0.82797	0.82638	0.82453	0.82237	0.81987	0.81696	0.81360	0.80971	0.80523	0.80008
90–	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

表4　明治大正期の推計人口　—男女年齢別—

年齢	明治元（1868）年			明治6（1873）年		
	男	女	男女計	男	女	男女計
0－4歳	1,942,651	1,914,153	3,856,804	1,912,579	1,917,006	3,829,585
5－9	1,580,753	1,533,705	3,114,458	1,757,574	1,721,206	3,478,780
10－14	1,813,153	1,708,344	3,521,497	1,536,966	1,484,734	3,021,700
15－19	1,744,013	1,603,508	3,347,521	1,756,963	1,647,817	3,404,780
20－24	1,624,435	1,445,226	3,069,661	1,668,549	1,524,840	3,193,389
25－29	1,374,627	1,193,887	2,568,514	1,542,433	1,362,834	2,905,267
30－34	1,185,948	1,046,158	2,232,106	1,304,961	1,128,808	2,433,769
35－39	1,407,876	1,214,177	2,622,053	1,120,851	984,770	2,105,621
40－44	1,092,592	986,007	2,078,599	1,316,885	1,131,188	2,448,073
45－49	984,845	896,165	1,881,010	1,005,523	915,853	1,921,376
50－54	864,057	810,834	1,674,891	876,541	821,802	1,698,343
55－59	717,854	711,223	1,429,077	732,815	724,221	1,457,036
60－64	567,786	605,630	1,173,416	574,054	610,912	1,184,966
65－69	412,112	481,066	893,178	416,249	484,365	900,614
70－74	260,215	337,056	597,271	263,434	340,816	604,250
75－79	130,842	193,077	323,919	133,980	198,024	332,004
80－84	48,360	82,745	131,105	49,660	85,340	135,000
85－89	11,967	23,648	35,615	12,114	24,101	36,215
90－	2,311	5,775	8,086	2,340	5,886	8,226
合計	17,766,397	16,792,384	34,558,781	17,984,471	17,114,523	35,098,994

年齢	明治11（1878）年			明治16（1883）年		
	男	女	男女計	男	女	男女計
0－4歳	2,257,148	2,276,561	4,533,709	2,373,093	2,394,540	4,767,633
5－9	1,733,868	1,727,836	3,461,704	2,050,732	2,057,169	4,107,901
10－14	1,710,172	1,667,780	3,377,952	1,688,423	1,675,863	3,364,286
15－19	1,490,381	1,433,347	2,923,728	1,659,568	1,611,526	3,271,094
20－24	1,682,644	1,568,557	3,251,201	1,428,903	1,365,908	2,794,811
25－29	1,586,607	1,439,876	3,026,483	1,602,483	1,483,400	3,085,883
30－34	1,466,623	1,290,604	2,757,227	1,511,148	1,365,881	2,877,029
35－39	1,235,654	1,064,545	2,300,199	1,391,414	1,219,517	2,610,931
40－44	1,050,719	919,391	1,970,110	1,160,971	996,095	2,157,066
45－49	1,214,998	1,052,898	2,267,896	971,936	857,654	1,829,590
50－54	897,319	841,532	1,738,851	1,087,241	969,477	2,056,718
55－59	745,393	735,570	1,480,963	765,206	754,887	1,520,093
60－64	587,645	623,619	1,211,264	599,475	635,010	1,234,485
65－69	422,096	490,165	912,261	433,423	502,026	935,449
70－74	266,982	344,752	611,734	271,707	350,561	622,268
75－79	136,254	201,514	337,768	138,775	205,206	343,981
80－84	51,128	88,218	139,346	52,315	90,530	142,845
85－89	12,495	25,064	37,559	12,934	26,148	39,082
90－	2,413	6,121	8,534	2,498	6,385	8,883
合計	18,550,539	17,797,950	36,348,489	19,202,245	18,567,783	37,770,028

表4（つづき）

年齢	明治21（1888）年			明治26（1893）年		
	男	女	男女計	男	女	男女計
0－4歳	2,313,372	2,323,856	4,637,228	2,410,073	2,400,849	4,810,922
5－9	2,161,176	2,169,789	4,330,965	2,112,178	2,112,060	4,224,238
10－14	1,998,664	1,997,408	3,996,072	2,108,141	2,109,121	4,217,262
15－19	1,639,780	1,620,928	3,260,708	1,942,701	1,933,931	3,876,632
20－24	1,592,970	1,537,589	3,130,559	1,575,910	1,548,651	3,124,561
25－29	1,363,044	1,293,898	2,656,942	1,522,131	1,459,203	2,981,334
30－34	1,528,881	1,409,705	2,938,586	1,302,757	1,231,946	2,534,703
35－39	1,436,482	1,293,298	2,729,780	1,456,274	1,337,669	2,793,943
40－44	1,310,337	1,143,810	2,454,147	1,355,967	1,216,036	2,572,003
45－49	1,076,778	931,369	2,008,147	1,218,613	1,072,070	2,290,683
50－54	872,216	791,408	1,663,624	969,164	861,348	1,830,512
55－59	929,884	871,628	1,801,512	748,283	713,186	1,461,469
60－64	617,292	653,385	1,270,677	752,546	756,442	1,508,988
65－69	443,582	512,929	956,511	458,302	529,615	987,917
70－74	280,065	360,841	640,906	287,787	370,581	658,368
75－79	141,994	210,130	352,124	147,222	217,880	365,102
80－84	53,649	93,022	146,671	55,317	96,172	151,489
85－89	13,320	27,107	40,427	13,767	28,167	41,934
90－	2,573	6,620	9,193	2,659	6,879	9,538
合計	19,776,059	19,248,720	39,024,779	20,439,792	20,001,806	40,441,598

年齢	明治31（1898）年			明治36（1903）年		
	男	女	男女計	男	女	男女計
0－4歳	2,603,606	2,601,174	5,204,780	3,031,040	2,995,500	6,026,540
5－9	2,206,519	2,189,118	4,395,637	2,390,710	2,379,971	4,770,681
10－14	2,062,246	2,055,456	4,117,702	2,156,453	2,133,142	4,289,595
15－19	2,050,926	2,044,329	4,095,255	2,008,153	1,994,615	4,002,768
20－24	1,869,481	1,850,424	3,719,905	1,976,334	1,959,203	3,935,537
25－29	1,508,540	1,472,643	2,981,183	1,792,907	1,763,435	3,556,342
30－34	1,457,455	1,392,108	2,849,563	1,447,143	1,407,876	2,855,019
35－39	1,243,442	1,171,605	2,415,047	1,394,012	1,327,027	2,721,039
40－44	1,377,970	1,261,061	2,639,031	1,179,443	1,107,565	2,287,008
45－49	1,264,548	1,142,648	2,407,196	1,288,692	1,188,058	2,476,750
50－54	1,100,152	993,755	2,093,907	1,145,213	1,061,703	2,206,916
55－59	834,140	778,073	1,612,213	950,069	899,885	1,849,954
60－64	607,606	620,621	1,228,227	679,699	678,970	1,358,669
65－69	560,684	615,335	1,176,019	454,349	505,155	959,504
70－74	298,611	384,680	683,291	366,968	447,644	814,612
75－79	152,245	225,473	377,718	159,067	235,921	394,988
80－84	57,849	100,743	158,592	60,403	105,393	165,796
85－89	14,329	29,483	43,812	15,154	31,305	46,459
90－	2,768	7,200	9,968	2,927	7,645	10,572
合計	21,273,117	20,935,929	42,209,046	22,498,736	22,230,013	44,728,749

表4（つづき）

年齢	明治41（1908）年			大正2（1913）年		
	男	女	男女計	男	女	男女計
0－4歳	3,166,809	3,117,635	6,284,444	3,624,667	3,560,382	7.185,049
5－9	2,791,952	2,750,918	5,542,870	2,926,733	2,874,304	5,801,037
10－14	2,338,807	2,322,185	4,660,992	2,734,186	2,687,839	5,422,025
15－19	2,101,938	2,072,518	4,174,456	2,282,021	2,259,091	4,541,112
20－24	1,937,928	1,914,910	3,852,838	2,031,502	1,993,452	4,024,954
25－29	1,899,099	1,871,490	3,770,589	1,865,953	1,833,814	3,699,767
30－34	1,723,217	1,689,565	3,412,782	1,828,813	1,797,154	3,625,967
35－39	1,387,086	1,345,296	2,732,382	1,655,236	1,618,468	3,273,704
40－44	1,325,524	1,258,102	2,583,626	1,322,240	1,279,215	2,601,455
45－49	1,106,187	1,046,284	2,152,471	1,246,788	1,191,812	2,438,600
50－54	1,170,828	1,106,593	2,277,421	1,008,334	976,978	1,985,312
55－59	992,441	963,835	1,956,276	1,018,351	1,007,177	2,025,528
60－64	777,004	787,499	1,564,503	814,755	845,900	1,660,655
65－69	510,189	556,409	1,066,598	585,527	647,804	1,233,331
70－74	298,785	371,031	669,816	337,194	411,069	748,263
75－79	196,941	276,814	473,755	161,645	231,503	393,148
80－84	63,791	111,555	175,346	79,932	132,503	212,435
85－89	16,036	33,240	49,276	17,206	35,759	52,965
90－	3,097	8,117	11,214	3,323	8,733	12,056
合計	23,807,659	23,603,996	47,411,655	25,544,406	25,392,957	50,937,363

年齢	大正7（1918）年		
	男	女	男女計
0－4歳	3,775,548	3,711,232	7,486,780
5－9	3,361,697	3,296,095	6,657,792
10－14	2,869,281	2,812,449	5,681,730
15－19	2,670,644	2,618,278	5,288,922
20－24	2,209,042	2,177,312	4,386,354
25－29	1,960,135	1,914,192	3,874,327
30－34	1,800,421	1,765,119	3,565,540
35－39	1,760,452	1,725,933	3,486,385
40－44	1,581,793	1,543,711	3,125,504
45－49	1,247,335	1,215,280	2,462,615
50－54	1,140,325	1,115,715	2,256,040
55－59	880,326	891,541	1,771,867
60－64	839,335	886,537	1,725,872
65－69	616,484	698,553	1,315,037
70－74	389,036	481,461	870,497
75－79	184,017	258,686	442,703
80－84	66,488	112,213	178,701
85－89	21,967	43,229	65,196
90－	3,915	9,244	13,159
合計	27,378,241	27,276,780	54,655,021